

事業所名

心理・発達相談室 こぐま

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

10 日

法人（事業所）理念		心理専門職によるマンツーマンでの関わりを基本とした少人数グループ（4, 5名）による活動を通してお子様の健やかな成長・発達のサポートを行う。さらに同時進行で保護者の方のご心配についても、より良い方向を一緒に考えていく。					
支援方針		『こぐま』では本人の気持ちや彼らの世界に寄り添うことを第一に、担当者は自由遊びや課題遊びの中から、お子様にとって必要な支援とは何かを考え、丁寧な関わりを深めることで、担当者からお友達、周囲の世界への安心感につなげていく。そのことが自分の気持ちを伝えようとする土台を作っていくと考えている。保護者の方への面談もお子様の療育時間に並行して行っており、児担当者情報共有をすることで児への理解が深まり、より適切な支援へとつながっている。					
営業時間		10 時	00 分から	18 時	15 分まで	送迎実施の有無	原則毎回保護者の方にご一緒にいらしていただきますが、都合のつかない時は代理の方でも大丈夫です。
支 援 内 容							
本人 支 援	健康・生活	毎回来所前に体温測定、記入していただき、入室前には手洗い・うがいをしていただくことで健康に対する意識を習慣づけている。その他、摂食、睡眠等に対する問題に対して、家庭と協力して健康で安全な生活が送れる様支援する。					
	運動・感覚	遊びやグループ活動などを通して、粗大・微細運動の向上を図るとともに、担当者は各児の保有する感覚の特性をよく観察し、それらに配慮した支援を行う。					
	認知・行動	担当者は各児の認知・行動の特性をよく観察し、配慮しつつ各人の自発的な意思を尊重し、保有する力を活用した支援を行う。一般的には問題行動ととられることであっても、本人が困っている結果の行動として捉え、本人の伝えたいことに対応できるよう支援を行う。					
	言語 コミュニケーション	言語のみならず様々なコミュニケーション手段を活用して、自発的な意思を尊重した意思伝達が行えるよう支援する。					
	人間関係 社会性	担当者との信頼関係を基に、周囲の人と安定した関係を築く土台作りを支援する。					
家族支援		月2回の面談に加え、毎回、保護者の方に連絡シートを書いて頂くことで、児の担当者との情報共有、対応がスムーズ。オープングループ、催し物へのご招待は未就学のきょうだい児も参加可能。			移行支援	就学時の小学校への情報提供書作成。また、インクルージョンの視点からキッズニア、コンサートなど一般の方々と一緒に催し物へのご招待を積極的に実施。	
地域支援・地域連携		こども発達センター等の公共機関、医療機関などとの関係機関と役割分担を行うとともに、保護者の方の同意の元、情報共有を行い支援に活用する。			職員の質の向上	事業所内研修の実施、外部研修への派遣、職員が所持している資格に係る研修への協力などを通し、職員の質の向上を図る。	
主な行事等		通常の活動の中で行われるもの（こいのぼり、お雛様、母の日・父の日のプレゼント、アジサイ、クリスマス飾り、豆まき遊び等の制作、お正月遊び） 行事（夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、豆まき、お別れ会）					